

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年 5月20日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691000048
法人名	株式会社 小園
事業所名	グループホーム すもも
所在地	鹿児島県指宿市東方2337-9 (電話) 0993-25-6001
自己評価作成日	平成28年3月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://kaken-syakyo.jp/kohyo
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成28年3月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた環境(庭にスモモ・レモン・梅・金柑の木がある、ニワトリが日中は放し飼いになっている。)で、利用者が穏やかで笑顔のある毎を送れるようにしている。
自尊心を傷つけないように配慮すること、プライバシーを守るなど基本的なことを中心に支援している。
地域のボランティアの方が月1~3回訪問してくださり、歌や踊り、三味線、尺八等演奏してくださり、利用者との交流を深めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○ホームは市中心地から車で10分ほど離れた住宅地に平成23年に開設され、同系列のデイサービスの施設が隣接している。庭も広くのどかで閑静な環境である。管理者及び職員は、「人間的に温かく思いやりをもって結の心で接する」の理念に沿って、利用者の尊厳や誇りを大切にしながら思いの把握に努め、利用者が住み慣れた地域の中で馴染みの人々と暖かく交流しながら、その人らしく生きるための支援に努めている。

○管理者及び職員は、開設以来地域との交流を積極的に取り組んできており、約6年経過する現在では、地域に密着した事業所として、地域の人々の信頼は厚く、高齢者福祉や介護保険、在宅ケアに関する心配事の相談にも適切に対応している。地域の運動会や夏祭りへの参加、施設主催の敬老会には多数の家族や地域の人々の参加があり、日常的に家族や友人の来訪、散歩時の地域の人との会話、隣接のデイサービス利用者との交流、農産物を頂くなど、馴染みの関係の継続が図られ、地域の一員として親しく交流がなされている。

○管理者は、職員間の協力体制及び利用者・家族との信頼関係の確立が、サービス向上に繋がると認識しており、日頃から要望や意見等の把握に努めている。課題に対しては速やかに職員全体で話し合って改善を図っており、職員及び家族等は意見や要望等を気軽に述べたり協議できる体制が築かれている。また、職員会議での内部研修や外部主催の研修会への参加、資格取得や技術修得へのバックアップ等、職員のスキルアップにも熱心に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	施設長及び職員全員で理念を確認し、実践につなげている。	利用者に温かく思いやりをもったケアの実施を目標とした理念を開設時に作成し、利用者個々の状況を見極めながら理念に沿った最善のケアの実施に努めている。理念は目に付きやすい玄関や事務室に掲示しており、日々のケアの中や申し送り、職員会議で研修や振り返りを実施して認識を深めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事にはできる限り参加している。また地域のボランティアの訪問も定期的にある。また、地域で農業をされている方から、ソラマメ、おくら、枝豆、大根、キャベツ等のおすそ分けを頂くことも多い。	自治会に加入し夏祭りや運動会など地域の行事、清掃活動に可能な限り参加している。地域の祭りの際は、踊り連及び太鼓隊が施設に立ち寄り、園庭で演技披露をしてくださっている。事業所主催の敬老会には家族や地域住民の多数の参加があり、ボランティアによる歌・踊りの訪問もある。日常の散歩や買い物時に地域の人と挨拶や会話を交わしたり、農作物のおすそ分けを頂く関係が出来ている。また、地域の方から高齢者福祉や介護に関する相談も受け、その都度適切に助言を行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域の方からの相談等あれば、必ず受け入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>利用者、利用者の家族、民生委員、市役所職員の参加があり、さまざまな見地からの意見を聞き、サービスの向上に努めている。</p>	<p>入居者代表や家族代表、市担当職員、民生委員、事業所関係者の出席で、年6回定期的に開催している。利用者や事業所の状況報告や改善課題、ヒヤリハットの事例、外部評価の結果等を報告している。市担当職員からは福祉の制度説明があり、委員からは災害に関する事やマニュアルについての意見等が出されており、会議の内容は会議録で情報を共有して、サービスの向上に役立てている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>定期的に市役所に出向き、または電話等で、相談を行ったり、アドバイスを頂いたりしている。</p>	<p>市担当者には運営推進会議に出席して貰うと共に、介護保険の更新や諸手続き等の際に訪問や電話で相談を行い、助言・指導して頂くなど密に連携を図ってサービス向上に取り組んでいる。また市が主催する会議や研修等にも積極的に参加して情報や意見の交換を行うなど協力関係を築いている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>開設当初より「身体拘束ゼロ」の取り組みを行っている。利用者の身体機能の向上に努め、身体拘束をしない環境作りに取り組んでいる。</p>	<p>マニュアル「身体拘束0への指針」を整備し、権利擁護と併せて職員会議の中で研修を実施して周知を図っている。日中は施錠しないで利用者の自由な暮らしの支援に努めており、外出しそうな利用者には一緒に散歩して気持ちの安定を図る等、職員間で日常的にケアの振り返りや意見交換を行って拘束しないケアを実践している。特に言葉による拘束については、利用者の尊厳に配慮した対応を常に意識して取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>身体的虐待ばかりでなく、暴言、脅し、無視、放置といった心理的虐待、介護の放棄といった内容の理解も深めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	生活保護や成年後見制度のしくみについて、職員会議等で学ぶ機会を作っていないが、これから学ぶ機会を増やしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に、御家族を中心に重要事項の説明を行い、確認をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議で利用者や家族が交代で参加できるようにし、意見をお聞きし、運営に反映させている。	利用者の思いや意見は日常の会話や表情、所作の見守りで把握に努め、家族の意見や要望等は運営推進会議や家族会、来訪時の対話、電話等を通じて利用者の状況を伝えながら聞き取っている。職員は「申し送り簿」や「経過記録」で情報の共有を図り、迅速に協議してサービスの改善の対応に努めており、経過や結果は速やかに本人や家族にも報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月職員会議を行い、問題点や要望を職員から聞きだすよう努めている。	管理者は日常的に話しやすい雰囲気作りに努めており、意見や提案を業務の中や申し送り、職員会議等で聞き取り、また、状況に応じて個別面談も実施して把握し、出された意見は速やかに協議して業務やサービスの改善に繋げている。また、勤務シフト作成や外部研修の参加、資格取得についても可能な限り希望にそってバックアップするなど、より良い職場環境づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	給与水準や労働環境等問題点があれば、改善に努めている。		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	法人内の研修は、毎月の職員会議で確認したり、新任は仕事を覚えるまで研修を受けている。また外部の研修にも積極的に参加して、ケアの向上に努めている。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	指宿市グループホーム連絡協議会や南薩地区グループホーム連絡協議会に参加し、同じグループホーム同士での情報交換に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に至るまでに、御本人と直接面会したり、御家族を話し合う時間を設け、安心して暮らしていただけるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にできる限りお話ししていくようにし、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にはご家族の要望、意見を把握して、施設で対応できるかどうか検討し、対応が難しい場合には、包括支援センター等に相談している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者といつ感覚ではなく、一緒に生活していく家族の一人と考え支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご本人と家族の絆を大切に考えながら、家族と共にご本人を支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所の関係は入所後も、大切にしている。	利用開始時に本人や家族、関係機関から、生活歴、病歴、家庭環境、地域との交流状況、趣味、嗜好等を聞き取り、各利用者の情報を共有している。家族や友人の来訪時にはゆっくり話せる場を配慮したり、本人の希望に沿って地域の行事への参加や美容室、買い物、一時帰宅等、馴染みの人や場との関係が途切れないように家族と連携して支援しており、その状況は「経過記録」に記録している。遠方の家族とは電話や手紙の取り次ぎにより関係性の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの個性に合わせて共同生活を楽しめるように、昼間はできるだけ居室での生活を避けて、ホールでの生活を心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病気などで入院しその後退去になったときでも、関係を断ち切らないよう面会をしたり、ご家族に電話をしたりして相談等に応じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや希望を把握して希望に添えるように支援している。	日々のケアの中で思いや希望の把握に努め、尊厳やプライバシーに配慮しながら本人主体の暮らしとなるよう家族とも連携して取り組んでいる。余暇の過ごし方については、利用者が希望する手芸や読書、新聞、音楽療法、花鉢の手入れ等趣味への取り組みも、申し送りや職員会議で対応を検討し可能な限り本人の希望に添って支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴などはご家族及び本人から十分に聞き取りして支援の中で生かしているように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者全員の健康状態には十分注視して対応しており、その人に合った1日の過ごし方と残存機能を活かしてのケアに取り組んでいる。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ゆったりとした生活が送れるように個人が満足して生活できるように、関係者と話し合い検討して、介護計画を作成している。	介護計画は、利用者本人や家族の意向や希望及び医師、担当職員からの情報を基に、職員全員で意見交換して利用者本位のきめ細かな介護計画を作成している。計画には各利用者の課題と改善目標等を明確にし、ケアの方法や受診状況等も詳しく記載されており、カンファレンスやモニタリングを繰り返して改善に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録を充実したものにして情報を共有してケアの中で活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の状況には取り組んで対応できている。ご家族の意向・要望で応えられるよう、できる限り対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が心身の力を発揮できるよう、必要最小限の身体介護、目配り等行い、地域のボランティア、家族の協力をいただいているが、十分とはいえない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を尊重している。特にかかりつけ医がない利用者には協力医と連携して定期的な受診できるようにしている。	利用前の病歴や受診経過は十分把握しており、本人・家族が希望する医療機関での受診を支援している。通院は家族と職員が協力して行っており、通院に際しては利用者のバイタルチェックのデータを持参するなど適切な医師との連携が図られている。協力医療機関の往診が月2回行われ緊急時の連携体制も築かれている。通院や往診の結果は電話で家族にも伝えて情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康状態を看護師が把握して他の職員にも報告して適切な処置対応ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者とそのご家族が安心して治療できるように見舞いに行ったりしてその状況も報告しあったり、病院職員とも関係作りを心がけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、かかりつけ医や協力医と連携を図り対応している。	利用開始時に 利用者本人及び家族に重度化した場合の事業者の対応について、出来ることや出来ないこと等を詳細に説明して理解を得ている。これまで看取りの実績は無いが、終末期対応については、職員の不安の除去や介護技術のスキルアップも重要と捉えており、疾病の症状や緊急時の対応技術の研修に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えての対応は定期的なケア会議や訓練等で、全職員に実践力を身につけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地域の防犯組合との連絡体制もできており、地震や火災時の準備はできている。風水害のマニュアルも定期的に見直して充実を図っている。</p>	<p>夜間想定を含む通報、避難、消化の訓練を消防署や自治会長も参加して年2回実施しており、訓練後は消防職員により、災害に関する講話や消火器の取扱い等の研修が実施され、また、隣接のディサービス職員や近隣の住人との協力体制も築かれている。災害発生時の飲料水やレトルト食品、缶詰類を備え、懐中電灯やカセットコンロ等の整備及び自動通報装置、スプリンクラーが設置されている。地区の消防団が時々来訪して消防設備や避難経路の確認等行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシー・人格を尊重しながら言葉掛けやケアに取り組んでいる。	利用者の人格や誇りを損ねるような言葉かけや対応を行わないための研修や日々の支援の中で職員間で注意し合う等、常に意識して実践に努めている。特に排泄や入浴時の支援、言葉づかいについては、人格やプライバシーに十分配慮して適切な対応に取り組んでいる。利用者に係る台帳類は施錠できる書棚で管理し、居室や浴室、トイレはプライバシーの確保に徹底した配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望については自由に話せるよう、職員はコミュニケーションを欠かさないよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個人の要望をよく聞き、その方のペースで生活できるよう取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが楽しめるように普段から心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を行い、好みの食事が出せるよう献立に組み込んでいます。また行事食を提供し、四季折々の季節感のある食事が楽しめるように食事を提供しています。	利用者の嗜好や身体状況、栄養バランスに配慮し、差し入れの食材も活用して季節感のある食事の提供に努めている。1週間毎にメニューを作成して食堂に掲示すると共に、テーブルには花を飾る等雰囲気づくりにも配慮している。おせちや誕生会、敬老会等の行事食のほか、ソーメン流しの外食、園庭やウッドデッキでのお茶タイム、誕生会やクリスマス会の手作りのケーキ等、食事が楽しみなものになるよう工夫しており、職員も一緒に談笑しながら食事している。利用者も下ごしらえやテーブル拭き等を楽しみながら行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や栄養面に関しては職員全員で検討しながら献立を作成している。一人で食べることが困難な方への食事介助をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に全員の口腔ケアを実施して、本人の能力に合ったケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄に関しては定時にトイレ誘導しておむつやリハビリパンツを使わないことを目標にして排泄確認表をもとに自立に向けたケアに取り組んでいる。	利用者の見守りや排泄チェック表を活用して、それぞれの排泄パターンの把握に努め可能な限りトイレで排泄できるように支援している。職員はオムツゼロを目標に、利用者個々に合ったケアの方法を話し合い介護計画に反映させて支援に取り組んでおり、入所時より改善が図られた利用者も少なくない。トイレ誘導や汚した衣服の交換に際しては、特にプライバシーに配慮した対応に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝夕の申し送り事項として、排泄チェック表を元に排泄状況を確認し合っ、個々に応じた対応を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	施設内の温泉入浴を楽しめるように、週3回入浴を実施している。	事業所は温泉を導入しており、入浴は週3回を基本としているが、毎日入浴の希望にも柔軟に対応している。個室で介助しており利用者の好みの温度や時間に配慮してゆっくり楽しんでいただき、身体の異常の観察や皮膚疾患の治療も行っている。入浴を渋る利用者には、無理強いしないで声掛けや介護者、時間の変更等工夫して利用者の意欲を待って入浴介助している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の睡眠が大切ということは、職員は理解しており、気持ちよく睡眠が取れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者全員の薬の服用については職員全員が理解できており、副作用などについても必ず薬説明書を見て理解している。誤薬のないように名前を記入し、十分確認してから服用していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活暦を活かし、毎日の生活を楽しめるように支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	希望に沿って外出などはできるよう支援している。外出の日には遠出できるようにし、御家族が来てくださるときは御家族と出かけられることもある。	利用者の健康状態や天候に配慮しながら、本人の希望に沿って、また家族とも協力しながら日常的に散歩や、園庭での花摘み、鶏の世話、ミニドライブ・墓参り・買い物・一時帰宅、外食などに出かけている。また花見、運動会など地域の行事への積極的な参加など、可能な限り楽しく外出できるように工夫しており、利用者の身体能力に応じて、車椅子スロープ車や車いす等も適切に活用している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの大切さは理解出来ているが、所持するとなると理解できない利用者多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	御家族からの電話があった場合は、取り次いでいるし、家族へ電話をしたい場合は、家族へ職員が電話し繋ぐように支援している。手紙は自由にやりとりできるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間では、季節感や生活感を取り入れて居心地のよい居住空間になるよう心掛けている。	木材を基調として、広い敷地に建てられたホームは、平屋建てで全体的に余裕のある構造となっている。リビングの天井は高く天窓があり、テーブルセットやソファ、テレビ、神棚等が適切な間隔で配置されている。広い畳部屋と随所にウッドデッキも設置され、生花や花鉢、利用者の作品、写真等が飾られて、和やかで落ち着いた雰囲気となっている。清掃や整頓に心がけ、空調、採光、防臭にも細かに対応している。園庭には多種の花木が植えられ、鶏小屋も設置されており、ディサービスの利用者との交流や地域の祭りの踊り連や太鼓隊の芸能披露など寛ぎの場になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ウッドデッキや畳の部屋を使用して利用者同士で話しをされたり、歌を歌われたりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、御本人や御家族と相談しながら、居心地良く生活できるように工夫している。	余裕のあるフローリングに腰高窓の仕様の居室には、ベッド、エアコン、整理ダンス、ロッカーが備えてある。家庭と同様に落ち着いて過ごせるように本人や家族の希望で仏壇やテレビ、家族写真、使い慣れた整理棚、食器、小物等を自由に持ち込んで和やかな空間となっている。清掃や整理整頓も十分で衛生的な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりのできることやわかることを把握し、個性を活かして安全な生活を楽しめるよう工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない